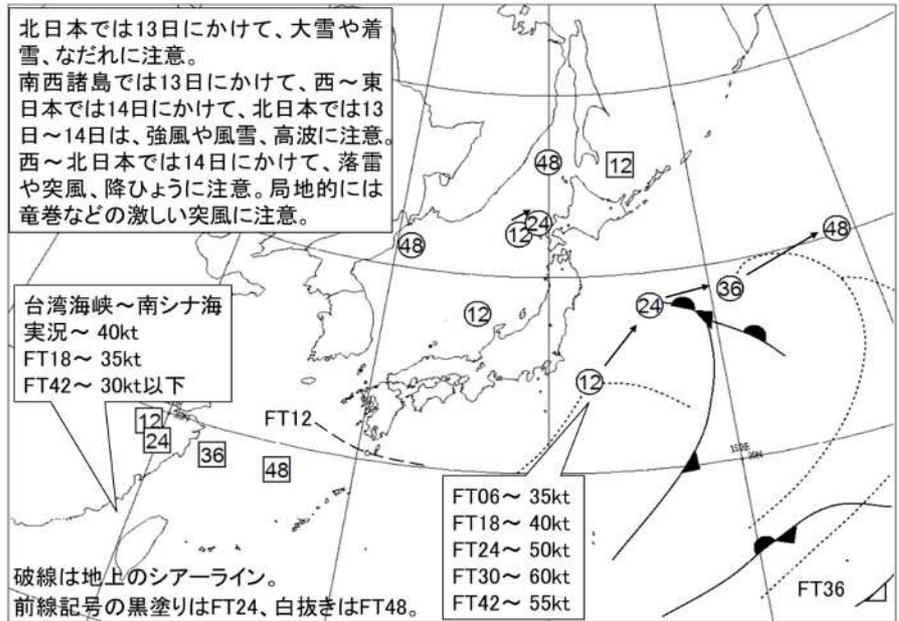


## 1. 実況上の着目点

- ① 日本海北部及び日本海中部、東海道沖には低気圧があつて、西～北日本は気圧の谷となっている。また、東シナ海から九州南部にかけて地上のシアークラインがのびている。西～北日本では1時間に10mm前後の降水を解析。山沿いを中心に3時間に3～5cm前後の降雪となっている所がある。また、低気圧及びシアークライン周辺では雷を多数検知。
- ② 500hPa5400m 付近の-36℃以下の寒気を伴うトラフが東シナ海にあつて、東進。



主要じょう乱解説図

- ③ 華南の中心を持つ高気圧と①の日本海中部の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、南西諸島及び西日本ではやや強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の日本海中部の低気圧は13日朝までに北陸地方へ進み不明瞭となる。日本海北部の低気圧も、13日夜までに北海道地方に進み不明瞭になる。また、シアークラインも、13日は次第に不明瞭になる。一方、東海道沖に12日15時まで低気圧が発生し、12日夜には関東の東へ進み、13日は1項②のトラフに対応し、急速に発達しながら日本の東を北東進。13日は日本付近は西高東低の気圧配置となる。北日本では13日にかけて、大雪や着雪、なだれに注意。低気圧及びシアークライン、西高東低の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、風が強くなり、波が高くなりしけとなる所がある。南西諸島及び西～東日本では13日にかけて、北日本では13日は、強風や風雪、高波に注意。
- ② 2項①の低気圧及びシアークライン周辺では、上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。西～北日本では13日にかけて、落雷や突風、降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 14日は、日本海中部で低気圧が発生し東進。低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる所がある。また、低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、風が強くなり、波が高くなる所がある。西～北日本では14日は、強風や高波、落雷や突風、降ひょうに注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

- ② 降雪量(18時からの24時間)：北海道30cm。
- ③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島4、その他広い範囲で3m。
- ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東～北日本では、注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。